

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル 有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家 (1号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	令和9年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JiyosyoCd=2277101883-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、敷地内では四季折々の草花を身近に楽しむことができ、自然環境にとっても恵まれている。ホームは山小屋風の平屋建て、吹き抜け造りで、ユニット間は一本の廊下で行き来ができ交流の場となっている。日々の生活においては、リビングに集いボランティアグループの方々による催しやカラオケを楽しむことができ、天候の良い日は庭に出て、散歩をしたり外気浴を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「一緒に楽しむのんびりと」が着実に実践されている事業所です。職員会議やカンファレンスでも「楽しんでいようだから継続したい」との意見がよく聞かれ、介護計画書にも落とし込んでいます。実際、居室に籠りがちの人にはお茶持参で話を聴いたり、車いすの人も楽しめるゲームを開発したりと、実現に向けた活動が日常に有ります。「家族に会いたい」との想いを叶えたいと本人が塗ったぬり絵を送ったところ(文字は書けない)、その後面会回数が増えた例もあります。管理者は着任3年目。10年以上勤務している看護師(介護支援専門員)に医療面でも心強いサポートを受けながら、「その人らしさ」を維持できる環境を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は事務室に掲示し、職員全員が理解共有し実践に取り組んでいる。職員会議やカンファレンスにて一人ひとりの対応への取り組みについて話し合っている。	会議では「楽しんでいるよだから継続したい」との意見がよく聞かれ、「その人の楽しみ」を介護計画書にも落とし込んでいます。実際、居室に籠りがちの人にはお茶持参で話を聴いたり、車いすの人も楽しめるゲームを開発したりと、実現に向けた活動が日常に有ります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板・地域の行事には利用者様と一緒に参加し、事業所の行事には地域の方々をお招きしている。また運営推進会議を活用し、お互いに情報交換を行っている。	民生委員を通じて生バンドが訪問してくれるようになっていて、年2回ほど3~4グループが利用者の馴染みの曲を披露してくださるとあって、涙ぐんでスタンディングオベーションとなる利用者もいます。またこの楽しい場には紹介者の民生委員も地域住民を誘って参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の施設体験学習の受け入れや悠々会(地域)・ボランティア等の協力により地域の方々と利用者様の交流を持ち、認知症への理解や支援を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議の実施で事業所の活動状況の報告、また行政のほか地域の方々の意見をお聴きしお互いに意見交換を行なっている。	介護保険課(隔回)、町内会副会長、民生委員、根洗神社管理者、シニアクラブ副会長、家族代表(後見人)、地域包括支援センター、管理者、介護支援専門員、職員と、総勢10人余となる場で充実の運営推進会議の開催が隔月叶っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃から連絡を取り合っている。また高齢者相談センターの方も来設されており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	年に3~4回開催される北区福祉施設情報交換会や、地域包括支援センターが主催する勉強会へと積極的に参加しています。生活保護受給者が8名おり、社会福祉課が年1~2回面談に訪れてくださるほか、事業所でも窓口訪問し、諸所相談にのってもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないで行なうケアについて学んでいる。事業所では身体的拘束適正化検討委員会等を設置し定期的な話し合いを行ない取り組み内容に関する自己評価を実施している。	声の強弱や言葉かけを課題とし、職員同士注意しあえるよう、主に職員会議や身体的拘束適正化検討委員会を通じて解決に向け進めています。当初は抵抗があったものの、「今、声が大きかったよ」「言い方がきつかった」とお互い少しずつ言えるように職員も成長しています。	昨年の法改正にあたっては、遵守に向け滞りなく実施されていますが、ファイルの一元化等書面整理が進むとなお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修や講習会で学ぶ機会を設け、不適切なケアが放置されないよう虐待の芽チェックリストを全職員が実施し実践に活かし、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等において権利擁護については学ぶ時間を作っている。制度の利用を要望する家族においては話し合い、申請までの支援を行っている。現在、後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は必ず文書と口頭で説明を行ない、不安や疑問、要望などを聞き、理解・納得を得られた上で契約が出来るよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族にも運営推進会議に参加して頂き、意見・要望・苦情等を聞く機会を設けている。また設置されている意見箱に記載された内容について話し合い、改善できるように取り組んでいる。	前回の外部評価を通じて課題としていた「家族との情報共有の増幅に向けた取組み」は、「ほほえみ便り(2ヶ月毎の発行)」を復活させています。ちぎり絵に臨む様子を読んだ家族からは「家にいた時にしていなかったことでも、できるんだね」と、驚いたとの声も届いています。	「ほほえみ便り」は復活しましたが、個々の毎月の様子を知りたい家族もいるようですので、今後の更なる取組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各号館ごと、また職員一人一人と面談等を行ない、意見や要望などを聞き改善できるように取り組んでいる。	業務に関しては職員会議やカンファレンスで「全員で話し合う」「皆で決めたことは従う」との考えが浸透しています。その一例として「経験値を優先した固定観念のケアに囚われず、利用者の状態変化に即して、新入(若い)職員の感性も大事にしよう」ということが取り決められています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長期において職員が働くことができるよう、個々に応じた勤務調整や研修への参加・勉強会を行ない向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な事業所での研修や勉強会を行ない、また職員個々で内外の研修や資格取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や地域情報交換会への参加を通じて、交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見や要望に耳を傾け、不安なく安心して生活が出来るよう話し合い、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや必要としている支援について家族と十分な話し合いを持ち、把握したうえでその対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を本人や家族と話し合い、把握したうえで十分な対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における掃除や洗濯、食事の準備や片付け等出来ることは職員と一緒に出来ない、共に暮らしている関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分理解し、生活状況の報告を行ない、話し合いながら安心して過ごせるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの方に来て頂いたり、また外出をすることもある。希望により手紙や電話支援を行なっている。	命日と彼岸には息子と連れ立ってお墓参りに出かける人、信ずる宗教に触れていたいと寺院に行くことを継続する人、「朝一番に珈琲が飲みたい」とマイボトルを置く人など、それぞれのこれまで続けてきたことを大切にとの継続支援が家族と協力し合っておこなわれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味などを把握したうえで、イベントの企画、ゲームやカラオケへの参加を促したり、会話の時間を設けかかわりが持てるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要により電話等を行ない、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや要望を会話の中から把握に努め、それが困難な場合は行動や表情から把握するようにしている。	「家族に会いたい」と言う人の想いを叶えたいと、字は書けないので自身が塗ったぬり絵を送ったところ、その後面会に来てくれる回数が増えた例もあります。「会いに来てくれた」と涙ながらに本人がとても喜んだことは職員の士気にもつながっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のサマリ等での生活歴、暮らし方、また本人との会話の中からどのような生活だったのか情報を聞き、カンファレンスにて情報交換を行ない把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、業務日誌、介護記録等に記入を行ない、週1回のカンファレンスにて話し合い、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人の暮らし、課題・要望・ケアのあり方を本人、家族と話し合いカンファレンスにて検討、それに基づいた介護計画を作成している。	介護記録に記載された「短期目標」に目を通さないと記録がつけられない仕組みとなっているため、職員の認識及び共有は成立しています。体調変化に応じて介護計画書を見直し、家族には電話で意向確認していますが、サービス担当者会議への家族同席はありません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を職員間で情報交換し記録に記入している。またカンファレンスで話し合い、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのおかれている状況や変化の把握とその時々ニーズに対応して本人が困ることなく生活できるよう柔軟な支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの開催、移動図書館の利用等、生活を楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診しその支援を行なっている。また理解を得られた方は協力医療機関に受診や往診をしており、その内容は記録し共有している。	かかりつけ医は4名が継続、受診は家族の付き添いを基本とし、必要な情報は看護師から文書にして渡しています。協力医には23名が変更、月に2回の訪問診療の場には看護師が立ち会い、医療連携につなげています。何れも医療情報は業務日誌、ナース記録に記載しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師としての職員を配置しており、24時間体制で連絡が取れ、利用者様の状態変化等に随時報告・連絡・相談ができ適切な対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には今までの情報を医療機関に説明し、情報交換を行ない、早期に退院できるように連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族から意向を確認し、主治医と相談して必要な関係者と話し合いを持ち、方針を決めて支援に取り組んでいる。	契約時には看取りに取組む事業所であることは伝えていますが、状態変化の都度家族に相談しています。できる限り家族の希望には応ずる態勢ですが、「点滴をしてほしい」等医療が必要になったり、清潔保持が困難になった場合(寝浴対応)には病院を紹介しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルが常に用意されており、すぐ確認が出来るようになっている。また定期的な研修や勉強会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の種類に応じたマニュアルがあり、計画を立て、日中・夜間の避難訓練を行っており、その際連絡網における伝達訓練や応急処置の訓練も行っている。また地域の方の協力についても運営推進会議で話し合いを行なっている。	近年消防署職員の立合いはないものの、以前消防車が到着するまでにやるべきことを具体的に指導を受けており、「火元は必ず扉を閉める」といった重要項目に留意した訓練を実施しています。また自治会の防災担当から「有事には駆けつける」との心強い言葉も得ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシー保護の意識を高めるよう職員会議等で話し合っています。気になる言動にはその場で注意し合っています。	重度化して自力摂取に時間がかかり、うまく口元まで運べない利用者も増えていますが、周囲の視線を気にせずに済むよう席を配置し、小声で関わる職員の姿を確認しました。ただし、難聴の利用者に大きな声が出てしまう職員も中にはいて、今後の課題としています。	言葉遣いなどの関わりに態勢に課題がある職員について、職員間で協力し合って是正につながることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を話しやすいよう声かけをして楽しい生活を送って頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが望む暮らし方、リズムに合わせ楽しい生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服はご自分の好みの物を選び着て頂けるよう支援しています。定期的に訪問美容にて整髪しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に会話をしながら可能な範囲での準備や片付けを行なえるよう支援しています。	2つの業者から、調理されたものやレトルトが届いています。重度化しても出来るだけ自分でできるよう、自助具の導入やワンプレートに替える工夫を怠らず、食事が進まない人に、「～もありますよ」「～はどうか」とタイミングよく丁寧な声かけをしている様子も視認しました。	食材の形態(冷凍やレトルト)が苦手な利用者もいるようです。現在事業所が提供できる食事状況を契約時に十分説明することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態を提供しています。水分は必要に応じてトロミ剤を使用したりお茶ゼリーでの提供も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアや義歯洗浄の声かけを行ない、必要に応じて職員が一部介助での支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように個々の排泄パターンを把握し声かけを行ない、尊厳を守りながら行えるよう支援しています。	本人の自立や「気持ち良さ」、家族の経済的負担にも配慮して、2人介助が必要な人が半数強となっても「日中はトイレでの排泄」に努めています。また布パンツで失敗がなかったり、紙パンツでないと不安だったり本人の不定愁訴の強弱に困って排泄用品を選んでます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態の把握と水分補給に注意し、ラジオ体操や歩行練習等、身体を動かす機会を作りトイレの座る習慣をつけるように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、一人ひとりの状態に合わせてゆっくりと入浴できるようにしている。入浴を拒否された方でも声かけ等を工夫して促している。	週に3~4回を目安として月~土連日で湯を張り、午後に4~5名が入浴しています。入浴拒否はあるものの「汗かいたから~」と促すと何とか入ってくださるとの流れがあり、湯船に浸かると「あ~気持ちいいなあ~」との声も出て良い表情と成る為職員もやりがいを感じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声かけにて活動を促し夜間眠れるように支援している。また、パジャマに着替えるなど安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と与薬はダブルチェックを行ない、内容の変更時は職員全員が共有できるようノートに記入し、症状の観察を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から一人ひとりのできる役割を見つけ、声かけにてその役割が担えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話から要望を聞き、家族の了承を得たうえで季節に応じた外出支援を行なっている。	盛夏、厳冬を除いて広い敷地内を散歩しており、玄関前の椅子に座り外気浴しつつ、シャボン玉を楽しむ日もあります。お花見(都田公園)紅葉狩り(万葉の森)は年間行事に位置付け、自力歩行できる人のみですが、法人本部から車輛を借りてエアパークにも出かけています。	以前より外出が減っていて足腰の衰えを心配する家族もいます。敷地内の散歩など個々のレベルに合わせて実施していることが十分家族に行き渡ることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人より購入したい物の要望があった場合は、職員が付き添い、それが出来ない方に対しては職員が代わりに購入してくるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望があれば、手紙のやり取りや電話の支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者様の作品のカレンダーや季節に合った貼り絵を掲示しており、室内温度の調整をしながら快適に過ごせるよう支援している。	平屋造りで天井が吹き抜けとなっていて明るく、開放感があります。四季のちぎり絵や書道、折り紙、ぬり絵などの利用者作品がたくさん連なり、「これは私ひとりでやったの」と自慢する利用者もいて、利用者の有用感に結ばれる共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースの居間にはテレビやソファがあり、自分の好きな時間にテレビをみたり新聞を読んだり、気の合う方とお話したりと思いい思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みの家具や思い出もある物を持ち込み家庭で生活しているような雰囲気居心地良く過ごせるように工夫している。	これまでは伴侶の遺影を飾っていましたが、認知症の進行で幻視が見えるようになり、小さなスナップ写真だけを残し遺影は家族に持ち帰ってもらったという少し寂しくなってしまった居室がある一方で、今はもう読むこともないものの好みの単行本がさりげなく置かれている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口に本人の写真と名前を貼り、食席にも名前を貼ってわかりやすくし、また食席は車椅子の方でも入りやすい位置を考え工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家 (2号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	令和1年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&jiyosyoCd=2277101883-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、敷地内では四季折々の草花を身近に楽しむことができ、自然環境にとっても恵まれている。ホームは山小屋風の平屋建て、吹き抜け造りで、ユニット間は一本の廊下で行き来ができ交流の場となっている。日々の生活においては、リビングに集いボランティアグループの方々による催しやカラオケを楽しむことができ、天候の良い日は庭に出て、散歩をしたり外気浴を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「一緒に楽しむのんびりと」が着実に実践されている事業所です。職員会議やカンファレンスでも「楽しんでいようだから継続したい」との意見がよく聞かれ、介護計画書にも落とし込んでいます。実際、居室に籠りがちの人にはお茶持参で話を聴いたり、車いすの人も楽しめるゲームを開発したりと、実現に向けた活動が日常に有ります。「家族に会いたい」との想いを叶えたいと本人が塗ったぬり絵を送ったところ(文字は書けない)、その後面会回数が増えた例もあります。管理者は着任3年目。10年以上勤務している看護師(介護支援専門員)に医療面でも心強いサポートを受けながら、「その人らしさ」を維持できる環境を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は各館事務所に掲示し、職員全員が把握し、理念を共有し実践に取り組んでいる。職場会議などで一人一人の実践への取り組みについても話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を回してもらったり、行事への参加も行っている。また、運営推進会議にも出席して頂いている。事業所の行事には悠々会(老人クラブ)の参加にて交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の施設体験学習の受け入れにて入居者と交流を図り、地域のボランティア等の協力により交流を持ち理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、事業所の取り組み状況の報告や意見交換を行なっている。また、職場会議にて話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、運営推進会議においても取り組み状況を伝え、高齢者相談センターとも関係を築くようしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、職員間で情報を共有し、危険防止策を考え、常に見守りを重視したケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修で学び、職員間での声かけ、実践に活かして虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている入居者もいる。日頃より、入居者の意向を理解し必要に応じ後見人に伝えたり、双方の関係が維持できるように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来ていただき、説明を行なっている。契約文書は、必ず説明を行ない不安や疑問・意向を聞きながら納得を得ている。また、制度改正時には、その都度説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族用に意見箱の設置はあるが利用されている方は少ない。日常的に意見の出しやすい会話に努め。面会時にはご家族と話し合いを持ち、出来る限り運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	AA過程や職員会議を毎月行ない、職員一人一人の意見や要望を聞き改善できるように話し合いを行なっている。また、申し送りやカンファレンス、申し送りノートを活用し意見の出しやすい仕組みを作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長期に渡り働きやすい環境作りや、個々に応じた勤務調整、AA過程の参加機会を行ない向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修、資格習得を促し、法人内での定期的な研修等にて意欲向上や、自分を見つめ直したり考える力に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の情報交換会や法人内での委員会の参加、また、他施設への訪問等にて交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に不安なことや要望等を聞き職員間で共有し安心して過ごすことが出来るよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前より、話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、また取り巻く関係の方々話し合いを持ち、必要な支援の把握や対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における掃除や洗濯・片付け等、出来ることは一緒に行なうよう関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の要望を受け入れ理解し、生活状況の報告を行ない話し合い、安心して過ごせるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの方に来ていただいたり一緒に外出し馴染みの場所や人との関係を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士ぬりえやカラオケなどの楽しみやイベント等の参加を促し、会話の時間を作れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要により電話連絡や訪問・面会等で本人の様子を見たり、相談はいつでも受けるよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から、思いや希望を表情や行動から把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り、関係者からの情報を記入し、カンファレンスにて情報を共有や情報交換にて生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、介護経過記録に記入し、カンファレンスで話し合い状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人の暮らし・課題・要望・ケアのあり方を本人や家族と話し合い、カンファレンスにて検討し、本人が暮らしやすい生活が送れるように介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員間で情報交換、介護記録に記入しカンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の変化や状況の把握とその時々ニーズに対応して本人が穏やかに楽しく生活が出来るように支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方と連絡を取り合い、入居者に楽しいでもらう時間を設けたり、移動図書館を利用し生活を楽しんでもらえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診されている方もいる。納得が得られた方は協力医に変更していただき、受診や往診を支援している。また、日々の健康管理を行ない、必要により主治医に報告し、介護記録にも記入し共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員として看護師を配置しており、24時間体制で入居者の体調変化の報告連絡・相談が出来るよう体制を整え適切な対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、これまでの入居者の様子や情報を医療機関に説明し情報交換を行なっている。また、入居者の状態把握のため連絡を取り合い、早期に退院できるように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。常に状態観察を行ない、重度化した場合は看護師に相談し、主治医と連携を図り、家族・職員全員と話し合い方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは目の届くところに張り出しており、すぐ確認できるようになっている。定期的に研修や勉強会にて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行なっている。総合訓練・夜間想定訓練・連絡網による伝達訓練も行ない、訓練には入居者も参加している。また、運営推進会議にて地域の協力についても話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や性格を把握し、入居者を尊重した声かけや対応をするように心がけている。職員会議やカンファレンスで話し合い、一人一人のプライバシーが守られるように意識向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で本人の意思を確認し、希望や思いを聞き、本人が自分の思いを言いやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切にしながら生活を送っていただいている。趣味や希望に沿って楽しい生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服などを一緒に選んだり、訪問美容の来設にて髪形を考えたり希望に応じた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお皿を工夫し、一人ひとりの力に応じ自力摂取が出来るように考えている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし記録をしている。また、状態に応じ食事形態を考え、水分にはトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は個々に応じた声掛け、居室誘導を行ない、歯磨きやうがい、入れ歯の洗浄の支援をしている。また、必要に応じ歯科往診の支援も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状態を把握し、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を考えトイレでの排泄や自立に向けた支援を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分補給に注意し、ラジオ体操の参加の声かけを行なっている。また、トイレにゆっくり座るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむことができるように支援している。また、一人で入りたい方は一人で入ることが出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状態に応じ、休息の支援を行なっている。また、日中の活動を促し、室温調整を行ない安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表の使用し、変更時には職員が共有できるように申し送りノートに記入している。個々の内服している薬の目的や副作用等は、いつでも確認が出来る。また、確実な内服支援を行ない、症状の変化についても観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握し、希望を聞き少しでも、喜びのある生活が出来るように支援を行ない、毎日行っている役割が継続できるように支援を行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望により、対応しているが出来ないこともある。出来ないときは、代替えとなるものを考え支援をしている。また、家族と連絡をとり、支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者はいないが、外出時買い物ができるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望により、電話をかけたり、電話で話ができるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の室温調整を行ない、混乱の恐れがある入居者には排泄時、同じ場所のトイレを使用するように支援している。また、ソファの位置を考え居場所作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り、気の合う利用者同士で会話をしたりくつろげるようにしている。居間では、テレビを見たり、ぬりえや写真を見たりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていたタンスや布団を使用し、使い慣れたものを使用している。また、ご本尊の配置やカーテンを自分好みにされている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の廊下やトイレ・居室には手すりが設置されており、手すりを持って移動できるようになっている。また、一人ひとりの状態に応じ、テーブルの座席の位置を考え出来るだけ安全に生活出来るように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101883		
法人名	都メディカル 有限会社		
事業所名	グループホーム一葉の家 (3号館)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町217番地		
自己評価作成日	令和1年9月10日	評価結果市町村受理日	令和元年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kanistrue&li_yosyoCd=2277101883-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接地には茶畑が広がり、敷地内では四季折々の草花を身近に楽しむことができ、自然環境にとっても恵まれている。ホームは山小屋風の平屋建て、吹き抜け造りで、ユニット間は一本の廊下で行き来ができ交流の場となっている。日々の生活においては、リビングに集いボランティアグループの方々による催しやカラオケを楽しむことができ、天候の良い日は庭に出て、散歩をしたり外気浴を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「一緒に楽しむのんびりと」が着実に実践されている事業所です。職員会議やカンファレンスでも「楽しんでいようだから継続したい」との意見がよく聞かれ、介護計画書にも落とし込んでいます。実際、居室に籠りがちの人にはお茶持参で話を聴いたり、車いすの人も楽しめるゲームを開発したりと、実現に向けた活動が日常に有ります。「家族に会いたい」との想いを叶えたいと本人が塗ったぬり絵を送ったところ(文字は書けない)、その後面会回数が増えた例もあります。管理者は着任3年目。10年以上勤務している看護師(介護支援専門員)に医療面でも心強いサポートを受けながら、「その人らしさ」を維持できる環境を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を把握・共有をし、一人ひとりの取り組み方についても考え実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板を回ってもらったり、お祭りの参加や、屋台の引き回しに来ていただいたり、神社のイベントの参加等にて交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の福祉体験の受け入れに協力しており、入居者との交流を通して理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議にて、現状や取り組み等話し合い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り合っている。また、運営推進会議においても取り組み状況を伝え、高齢者相談センターとも関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修にて身体拘束をしないケアについて学んでおり、職員間で情報を共有し、危険防止策を考え、常に見守りを重視したケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の関連について常に話し合い注意をし防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解と活用について、管理者や職員は日常生活支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際は、利用者や家族の不安や疑問を聞き、十分な説明を行ない理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族用に意見箱の設置はあるが利用されている方は少ない。日常的に意見の出しやすい会話に努め、面会時にはご家族と話し合いを持ち、出来る限り運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に対する意見や提案を職員会議等にて発言できる機会があり、改善できるように話し合いを持ち、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の長期に渡り働きやすい環境作りや、個々に応じた勤務調整、AA過程の参加勉強会を行ない向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の研修、資格習得を促し、法人内での定期的な研修等にて意欲向上や、自分を見つめ直したり考える力に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や地域情報交換会への参加を通じて、交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に不安なことや要望等を聞き職員間で共有し安心して過ごすことが出来るように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前より、話し合いを持ち、困っていることや要望を聞き対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族、また取り巻く関係の方々とは話し合いを持ち、必要な支援の把握や対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中で掃除・洗濯・食事の準備・片付け等、その人に合った出来ることを一緒に行ない共に暮らせる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族の気持ちを十分に理解し、連絡・報告をし、話し合いにて安心して過ごすことが出来るように関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人が気軽に出入りできる環境に努め、家族に協力を得、馴染みの場所等に行くことが出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士ぬりえやカラオケなどの楽しみやイベント等の参加を促し、会話の時間を作れるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの関係を大切にしながら必要に応じて、本人家族の経過を支援し相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、困難な場合は本人本位に話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活や暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノート、介護経過記録に記入し、カンファレンスで話し合い状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためのケアのあり方について、本人や家族等と話し合い、意見を聞き、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケア・気が付いたことを個別記録に記入し、申し送りノート等にて情報を共有しカンファレンスにて意見交換も行ない、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の変化や状況の把握とその時々ニーズに対応して本人が穏やかに楽しく生活が出来るように支援に取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館やボランティア・また、本人を支える方々等と協力し、安全で楽しい生活となるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診されている方もいる。納得が得られた方は協力医に変更していただき、受診や往診を支援している。また、日々の健康管理を行ない、必要により主治医に報告し、介護記録にも記入し共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員として看護師を配置しており、24時間体制で入居者の体調変化の報告連絡・相談が出来るよう体制を整え適切な対応が取れるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、これまでの入居者の様子や情報を医療機関に説明し情報交換を行なっている。また、入居者の状態把握のため連絡を取り合い、早期に退院できるように関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し理解して頂いている。常に状態観察を行ない、重度化した場合は看護師に相談し、主治医と連携を図り、家族・職員全員と話し合い方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは目の届くところに張り出しており、すぐ確認できるようになっている。定期的に研修や勉強会にて学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルがある。年2回防災訓練を行なっている。総合訓練・夜間想定訓練・連絡網による伝達訓練も行ない、訓練には入居者も参加している。また、運営推進会議にて地域の協力についても話し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人らしさを受け入れ「分かること」「出来ること」を探し、カンファレンスで話し合い、その人らしさを大切にし、職員同士、言動に気づきがあれば注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で伝え、本人の思いや希望が話せるよう、ゆっくりと本人のペースに合わせて自己決定が出来る会話を持つように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがどのような生活を望んでいるのかを、言動の観察をし、本人に無理のない生活が過ごせるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に服を選んだり、髪をとかしたりと、身だしなみやおしゃれが出来るように支援をしている。また、訪問美容の来設にて、希望に応じたカットをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲にて食事の準備や片付けを行なっている。副食の盛り付けや彩りなど、会話を楽しみながら支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの食事量や水分チェック表に記入を行ない、状態に応じてキザミやミキサー食とし、摂取しやすいように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の手入れや歯磨きが上手に行えない方は一緒に声かけや手伝いを行ない、デンタルリンスの活用や口腔ケアの支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入にて状態を把握し、一人ひとりに応じたパターンで声かけや誘導を行ない、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて状態を把握し、水分補給を行ない、ラジオ体操や外気浴にて身体を動かすように促し、便が出せるようにトイレに座る習慣の支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、仲の良い入居者同士が、会話を楽しみながら入浴が出来るように支援し、のんびりと湯船につかれるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は眠れるように、日中は一人ひとりが出来ることの支援を行ない体調に合わせ休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は申し送りノートやカンファレンスにて職員全員が理解し、症状の変化や観察を行ない情報共有を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見つけ、役割を持って取り組めるように声かけや支援をしている。また、カラオケやイベントを行ない、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴や園庭を歩いている。また、また、家族と連絡を取り合い、本人の希望を家族に伝え、希望する場所に出かけられるように支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診の際、自己にてお金を管理し希望の物を購入できるように支援をしていた方もいた。また、家族との外出時、自己にて購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や母の日などのイベント時に宅配物が届く方もおり、希望に沿って電話支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や壁には利用者が作成した作品を掲示し、季節に応じて、エアコンの風や天窓の光等の配慮を行ない、居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、一人でゴミ袋を作りをしている方や、気の合った利用者同士で会話をしている方もおり、思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、使い慣れた家具や布団を持ち込み、状況や本人の希望により、家族に持ってきていただき、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内の廊下やトイレ・居室には手すりが設置されており、手すりを持って移動できるようになっている。また、一人ひとりの状態に応じ、テーブルの座席の位置を考え出来るだけ安全に生活出来るように工夫している。		